

文部科学省科学研究費助成事業（基盤研究 B）

人口減少・都市縮小時代の都市中心部の老朽化商業施設等の再利用・再開発に関する研究

（課題番号：16H03674）

ヒアリング記録：

魚津市中央通り名店街における防火建築の実態

実施日：2018 年 2 月 27 日（火）

対応者：大野慎太郎（有限会社大野商店 代表取締役社長）

編集担当：新島裕基（専修大学商学部専任講師）

平成 3 1 年 2 月

## 目次

<概要>p. 1

<議事録>p. 2～p. 18

<概要>

実施日時：2018 年 2 月 28 日（月）13:00～14:30

場所：魚津中央通り名店街

対応者：大野慎太郎（有限会社大野商店 代表取締役社長）

出席者：渡辺達朗（専修大学商学部教授）

新島裕基（専修大学商学部兼任講師）

※所属・肩書は当時のもの。

## <議事録>

### 1. 本調査の趣旨

(渡辺) 我々、商業系の研究者で、商店街の活性化やまちづくりをしていますが、50年代までさかのぼった研究はあまりやっていませんでしたが、そこに注目してみると、現存する50年代、60年代につくられた建築物のある地域が、いま、さまざまな課題を抱えていることがだんだんと分かってまいりました。それらの建築物がどういう経緯で開発され、現在、どういう課題を抱えていらっしゃるのかということを、商業的な観点からうかがっております。

ですから、このように再利用されて、リノベーションで使われているということは、まだ全国を回っているわけではありませんが、いままで回った中では素晴らしい例だと思いますので、この事例を全国で共有できればいいなと思っております。

### 2. 魚津中央通り名店街を含む全国各地の防火建築帯

(大野) 裏面を見ていただければ分かると思いますが、もともとこの商店街ではなく、もう1つ下にもう1つの防火建築帯があります。

(渡辺) ここは長いですね。

(大野) そうです、ここの商店街はすごく長いんです。これは神奈川大学の中井教授に作っていただいたのですが、中井教授は設計・建築の研究の一環ということで、横浜は防火建築帯がすごく多く、彼は横浜から研究を始められて、防火建築帯は建築・設計分野の方々の研究対象となっているようで、防火建築帯のフォーラムもあるようです。防火建築帯の中でも沼津と鳥取など古いものもありますが、魚津はそこまで古くはないのですが長いということで、「四大防火建築帯」と我々が勝手に呼んでいる中の1つに入っています。

(渡辺) 魚津、沼津、鳥取、横浜ですか。

(大野) そうです。

(渡辺) 横浜はだいぶ壊されていて、残らない感じですね。

(大野) そうです、なかなか厳しいところがあります。

これは中井先生の資料ですからお渡しするのは難しいのですが、こういう形で、これは沼津の防火建築ですが、ベルトで止めて近代復興のためにという、燃えない建築をつくって火事を食い止めようというのがありまして、国の施策の中でつくられました。この今泉さんという方が高岡もそうですが、日本中の防火建築帯をつくっておられます。

鳥取はいちばん古く、大火の直後にこの建築が全国で初めて指定を受けました。古かったのもありまして、需要がよく分からないままつくっていらしたのでバラバラの形ですが、1階部分が防火建築帯です。

沼津も今泉さんと池辺さんでやられたらしいですが、このあたりが面白くて、セットバックしています。防火建築帯ということで2階でずっとなっています。

横浜は、どちらかというと、この黄色い区画を全部防火建築帯で囲ってしまおうということで計画があったらしいのですが、お金もなく、いろいろ難しくて、いま、赤字になっているところだけが防火建築帯としてポツポツとなっています。

上2つは、皆さん住んでおられたりしますが、いま壊して再開発していこうという動きになっています。

(渡辺) 沼津は壮大な計画を立てておられます。

(大野) あれはやばいと思います。あれは絶対にやばいと思います。

(渡辺) 大丈夫かなと思いました。

(大野) まちの規模もありますし、身の丈に合ったようなまちのつくり方をしていかなないと、ちょっとハードとソフトが合っていないような話を聞きます。

(渡辺) 自信满满におっしゃっていましたが、ちょっと怖いなと思いました。

(大野) 補助金も入りますので何とも言えませんが、1億のところが半分以上が補助金だ

としても、建つのは1億の建物ですからその固定資産やいろいろなものを払っていかねければなりません。おそらくランニングが合わなくなってくるのではないかと思います。なかなかそれは難しいなと思いながら聞いています。

横浜はどんどん壊されていますし、残っているのもいまは廃墟に近いような感じです。

いま、ちょうどやっているのですが、「リピート」という、私が好きだったサスペンスの小説がドラマ化されています。貫地谷しほりさんが出ている土曜日の連続ドラマなのですが、それが今回、私が見に行ったことのある横浜の防火建築帯のビルがちょうど出てきて、「おっ」と思いました。日本中で気付くのはほとんどいないだろうなと思いながら見ていました。

横浜はまっすぐのベルトではなく、ブロックになっていますからまん中に光採りの中庭を設けています。

(渡辺) ヨーロッパ的な感じでいいですね。

(大野) そうです。

### 3. 魚津中央通り名店街の概況

(大野) いま、来ていただいているのは、中央通りというところで、このあたりが藤吉なんです。私がもともといるのはこの銀座通りというところで、また別の商店街です。魚津はここに新宿があって、文化町というのがあって、カタカナの口の字型に4つの商店街があります。

終わりごろでもありましたので、本当は3階をつくれと国には言われていましたが、皆さんお金がないので2階までつくって、あとは自分たちでつくりますからということで補助金の申請をされたらしいです。1.5キロと長いということで、四大防火建築帯とフォーラムでも伝えておられるらしいです。

大火があった後に復興させようということで国からも多くの支援があつて、街区に分けて研究していつていますが、昔はこういう形でできたということです。いま、防火建築帯としてはこのブロックでつなぐと、ちょうどこのあたりが私の店舗のあるところですが、3階建てで上のほうにレンガの塀が建っています。ここまでいつてるとカッコいいなと思っていたのですが、アーケードが付いたことによって、いまはこういう感じの商店街に

なっています。

私は防火建築帯に興味はなかったのですが、昔、ここはうちの取引先の和菓子屋さんでしたが廃業されるということで、私もこだわりの食品を集め始めていたところでしたから、店舗が欲しいなと思っていました。そして買い物のアンケートで「惣菜屋が欲しい」という話がありましたので、では、健康にもいいお総菜をつくろうというのでお総菜と、若い人にも来てもらいたいののでランチと、そしてグローサリーというのを3つやれば、キャパが少ないですから、足し算で全部それを賄えれば何とか売上が回るのではないかとということでやり始めました。

この設計は、たまたま同級生が東大の院に行っているときに、これを卒業設計でつくってくれました。ここは2軒分で、ここが八百屋さんでこちらが和菓子屋さんでした。後で見ていただければ分かると思いますが、ブロックですから、壊したら壁が抜けるような構造になっています。

### 3. 防火建築の構造

(渡辺) 奥行きはどこまで防火建築なんですか。

(大野) その扉ぐらいまでです。

(渡辺) あとは後ろの付け足し部分ということなのですね。

(大野) あとは、皆さん自分たちで鉄骨で付けたり、木造で付けたりしています。また、違法建築になりますが、2階までしかつくっていないところは上は載せる形で増築されたりしています。

こういうのもあたりというので東大の先生がこれを書いていて、昔の図面も出てきましたので、こういうふうということなんですが、すごく面白いのが商住一体ということで、住む方の思いを今泉さんが全部セミオーダーメイドで一軒一軒つくっているのです。普通であれば、きれいに全部やってしまって、あとはお好きにどうぞという感じだと思いますが、この人の区画に合わせて2階、3階を設計されているようです。それはなかなか面白いなと思います。

#### 4. 大野氏の商店街活動参入の経緯

この下に「ハラマコト」と書いてありますが、お父様が設計事務所をやっておられますが、たまたまそのゼミに入られて、横浜の防火建築帯を学んでいるうちに魚津にもあったなということになり、研究していただいたのが始まりです。私も、このお店をやって、本当は波及していっぱいお店ができたらいいなと思っていたのですが、そうならず苦しい時期がありまして、商店街を捨てようということではないのですが、ここはここでいいと、私は別で仕事をしていこうと一時期考えていたときがあったのですが、彼が来てくださったり、中井教授が「これは残したほうがいい」と言っていただきましたので、きれいに保管ができて商住一体になればここにしかない商店街ができるのではないかと思ったわけです。

#### 5. 大学院生によるリノベーション

高岡はもう壊れてしまったのですよね。いま、きれいになった駅前のあたりにあったのですが、そこがすごくカッコ良くて、光採りでまん中に抜けている通路がデザイン的にも面白いと思っていたのですがなくなってしまってもったいないと思います。

先ほどの沼津の話ではありませんが、大きい話になっていくと、結局は建築も微妙ですし、コンセプトもないままに何となくいいものはできるのですが、コストがあって事業リスクが高い、でもその代わりすぐにできます。でも、我々はこちらのほうを取っていかねばいけないのではないかとことでいまこういう形で動いています。

このへんはリノベーションの例です。空き店舗をどうしようかという話もあります。横浜の事例もあります。

これは、私が市に掛け合って、インターンシップの事業がありましたので、インターンシップをこれにしてくれと言って、1年生や2年生でまだ高校生の感じの子たちが来ても上っ面の魅力だけ見付けて、発表して、地元の人たちが知っていることだけで終わってしまうというのがありましたのでそれはやめようということで、少し研究していただいて、M1、M2の子たちにしてもらいました。

#### 6. 防火建築帯フェスティバル

実は、ちょうどいいタイミングで、3月25日に「防火建築帯 FES」というのがあります。おそらくほかにどこもやっていないと思いますが、県の予算がありまして、3月まで



に使って欲しいという話もありまして、最初はマルシェか何かを考えていたのですが、ここでやる意味というのを考えて「防火建築帯 FES」という名前で開催いたします。地元のこだわっているお店も来ますし、ワークショップでは森林組合が木を提供してくださいますので、それで何かを作ったりということができるようになっています。これに関しては、興味を持っていただいている人をもっと増やしたいと思っています。「防火建築帯って何?」というところから、「そんなの残す必要があるもんなんだ」というような世論をまとめていくためというのもありまして、ちょうどいま企画しているところです。



(編集担当者撮影)

こういう形で残すべきものなんだというのを、普段の商店街をそのまま盛り上げようということです。道をとめることはしませんから、そのままアーケード下でやろうと思っています。これの模型があるのですが、5メートルぐらいありますから、置き場がなくて大学に戻しましたが大学でも置き場がなく、そろそろこちらで引き取りましょうかということで、そうすると市民にも見ていただけるようなものを考えています。これはいま、やっているところです。



(編集担当者撮影)

いま、ちょうどやり始めて、富山大学のほうにもいまから行ってきましたが、まちづくりに興味を持っている学生が、時代の流れもあると思いますが増えてきています。そこを商業として商店街を見ていくといろいろなやり方があると思いますが、ハード面とソフト面と、それから「住んでいる」というのも併せて、バランスは難しいですが、変わった商店街ですからやりようはあるのではないかなと思って、いま、動いています。

## 7. 防火建築の耐震などの構造

(渡辺) 建物自体は耐震上は大丈夫なんでしょうか。

(大野) 教授の話ですが、設計上は全体でもっているということです。ただ、どこかを崩すと、例えばまん中を崩すと危ないですが、この長さで、しかも後ろに増築していますので後ろでも引っ張られますから、もし前がもし動いたとしてもそこまではというお話です。ただ、見ていただくとお分かりになると思いますが、いまの建築上では柱が細いんです。いまの鉄筋コンクリートではあと 10 センチぐらい、2 回りぐらい太い柱になってくるそうです。

いまはコンクリートに注射して硬度を保つ仕組みもあるなどやりようはあるようですが、やるのであれば、どこかで耐震壁を横向きに入れるとか、そういう形になってくるのではないかなという話をされていました。

(渡辺) 歩道のアーケードのほうは沼津のような感じになっているのでしょうか。

(大野) 普通のアーケードです。切り離せるといえば切り離せます。

(渡辺) 建物がせり出しているわけではないのですね。

(大野) はい。

(渡辺) そのほうが安全ですね。

(大野) 結局、補修をすればよかったのですが、ずっと補修もしないまま錆びてきていて、2年後に県と市の予算を出してもらって壊すというところまでは何となく決まっています。アーケードをどうするかという問題は、私が店舗を出してから5年になりますが、10年ぐらい前からずっと同じ話をやっけていまして、全商連に話をもっていって、まちづくり法に合わせるためにプランナーを入れたり、勉強会を3年間やったりしましたが、結局通らず、無駄なお金と無駄な時間を使ってコンサルにたくさんお金を払ってというような残念な話がたくさんあります。

私も途中から行かなくなりました。いろいろ見させていただくと、コンサルもピンキリで、「この人じゃないな」と思いました。話をするだけでその方の見てこられたものが分かりますから、難しいと思います。

## 8. 防火建築帯の利活用について

いま、彼らは建築の目線から、私は防火建築帯は防火建築帯として、いま、こちらで問題になっている空き家もこういうふうに変えていけばいいのではないかというのを事業にしようと思っています。いま、進めているのは、例えばおばあちゃんが亡くなられた空き家があって、自分は東京に住んでいて、年に1回風通しと掃除と墓参りで帰ってくるというようなところをターゲットにしようと思っています。そういった家をゲストハウスと管理を合わせたようなビジネスを考えています。1年間1万円で管理しますよと、掃除もしますよと、仏壇とかそういうところは養生して入れなくしておきますから、家賃ただで貸してくださいということです。沖縄のコンドミニウムのような仕組みを使って、そこをゲストハウスとして1軒貸しにして、そしてうちのお店で鍵とシーツと枕をお渡しして、まちに住んでくださいという感じです。そして飲食店のマップもありますから、それで回してというようなことを考えています。

(渡辺) 旅行者ではなく、長期的に住むような人をターゲットにされるのでしょうか。

(大野) どちらかというと旅行者のほうが安全度が高いですから何ともいえませんが、どこで線引きをするのかは難しいと思っています。魚津市は飲食店がとても多いという特徴がありまして、一時期は人口比率で横浜に次いで2番目に多いぐらいでした。サケ・マスの漁船が着いて、そのお金を持って飲みに行くというようなのが昔からありまして、そ

うだからなのか、皆さん、飲み会でも3次会は好きに行ってくれですが、2次会までラストで決まっています。面倒臭い先輩だと3時、4時まで連れ回されます。そういうのもまちの文化として、食のレベルも高いみたいです。

ですから、夜泊まってもらって、飲食で楽しんでいただいて、富山県のいろいろなところへ行ってもらおうとか、釣りをされる方も需用としては多いので、高山や岐阜、名古屋から来られて、車中泊して釣りをして、富山湾や魚津の浜でとった魚を持ち帰るといって、一切地元にお金が落ちませんから密猟みたいなものですが、そこを、浜のほうの空き家を拠点にして、ちょっと休まれたらどうですかと、3千円ぐらいで借りれますよということにすれば、家族で来て、お母さんと子どもは釣りもするけれど、ショッピングもしながらまちを回ってという、そういう切り口であれば需用があるのではないかと、いろいろな需用も探りながらそこはビジネスにできるのではないかと考えています。

そのまち、まちで全然違いますから、そのまちが持っているポテンシャル、活かすべきものをどうやって見付けるかという感じです。

先ほどの空き家のプランであれば日本中どこでも使えますから、うまく事業化できれば面白いなと思っています。おそらく空き家を貸すだけではダメで、地元の飲食店や銭湯もセットであったり、また、近隣の旅行のネタになるようなものも1つかなと思っています。

(渡辺) 氷見でもこの2月何日かにオープンする、下がカフェで上がゲストハウスというのを見せていただきました。

(大野) 1つでやろうとすると大変ですが、そういう形はありだと思います。ただ、ゲストハウスは泊利用者側からはけっこうハードルは高いと思います。私も出張に行きますが、ビジネスホテルには泊まりますが、ゲストハウスは人がいる前提ですから出会いが欲しい人は行きますが、そこに出会いを求めているわけではありませんから行きません。であれば家族で安く泊まれて、地元を感じられて、ホテルとは違った体験ができるという形で提供できたほうがいいのではないかと考えています。

ゲストハウスに行かれますか？

(渡辺) いや、なかなか。

(大野) いま、それこそ滋賀県の草津（だったと思いますが）で商店街ホテルというのがありまして、『自遊人』という雑誌がありまして、南魚沼の会社なんですが、雑誌をいろいろつくってまして、「里山十帖」という名前で温泉地のホテルをリノベーションして、1部屋1部屋こだわりのものすごく詰まっていて、去年オープンしたのですが、オープンしてからずっと満室の状態です。そこが旅館としても有名になって、食にも非常にこだわっています。

大津でした。すごくデザインもいい感じで、商店街のど真ん中にリノベーションして町家がドーンとできている感じです。ただ、岐阜の柳ヶ瀬商店街も仲が良くて、行って勉強させていただいていますが、滋賀県や岐阜だったりというのは名古屋のベッドタウンであったり、京都に近いという立地条件の良さもありますから、そこは魚津市にははまらないところもたくさんあります。魚津市は富山市のベッドタウンではなく、どちらかというと地場で動く人が多かったり、いっても黒部のYKKに勤められている方が多いというところですから、これは1ついい話だと思いながらもそのままこっちにもってきてもダメだなと思っています。

どうしても市単位で盛り上げていかなければいけないと思いますので、リノベーションして、商店街がいちばん税金を取りやすい、固定資産税を下げたくないから助成金を出して投資をしていっていくというのは分かりますが、うわべではなく、本質なところでやっていかなければ難しいと思います。

(渡辺) 市から見るとここが中心部の商店街になるのでしょうか。

(大野) そうですね、ただ、旧市街地が中心商店街ということになっています。固定資産税もまだまだ高いですし、駅前とこのあたりが高いです。

せっかくですから、上に行きませんか。

(渡辺) お願いします。

<移動>

(大野) ここが2階部分で、増築したところもあります。レンタルスペースという形で、

ベビーマッサージとか、子どもさんの英会話教室みたいなこともしています。コンクリートむき出しでしたから、壁を貼りました。本当に貼っているだけです。嫁と2人で塗って、手作り感があると思います。建てるときに階段を囲まなければいけなかったんだろうと思いますが、いま、こんな感じになっています。



(編集担当者撮影)

(大野) ここから増築です。反対側の2階部分は住居として、いま、私が住んでいます。うちの父はギター好きで、安いものばかりで高いものは全然ありませんが、安い昔のギターを自分でリメイクして、きれいにしていたようです。



(編集担当者撮影)

(大野) もともとお菓子屋さんで、弟子を雇っていましたから部屋がたくさんあります。

(渡辺) 職人がいたわけですね。

(大野) 和室もあって、和室には茶室もあります。

(渡辺) 城下町だから和菓子とかお茶とかっていう文化があったんでしょうか。

(大野) もともと上杉方の地域ではありますが、そこか佐々木とかあっちになっていて、歴史的にはいろいろな人たちがあってという地域です。一応、城があったので、その周りには神社仏閣が多く増えて、そこが街道になって、結局、ここも北街道です。街道沿いの商店街で自然発生的にできあがっていたというふうに聞いています。

この部分が防火建築帯で、「シェアする」というのはいまは普通になってきていますが、あの時代にみんなで建てて、境界線もないというのは面白いと思って見えています。ちょうど、電車もこの同じレベルに走ります。きょうはあまり見えませんが、山も近く見えます。ここでグランピングとか、おしゃれなキャンプみたいなのをできたら面白いなと思っています。



(編集担当者撮影)

(渡辺) 広いですね。

(大野) 防水はけっこう簡単にできるらしいので、人工芝でもはわしたら気持ちいいの



ではないかと思っています。海も見えます。

(渡辺) 近いんですね。

(大野) 面白い位置ではあります。

上から見ると分かるのですが、レンガになっているところが防火建築帯です。ここまで続いています。途中2軒が木造なのですが、結局お金があるかないかで、助成金があっても乗るところと乗らないところがあったようです。



(編集担当者撮影)

ここはうちです。いまからは不法侵入になります。増築していますので、けっこうクーロンとかジャッキー・チェンとか……。

上の電線に気を付けてください。



(渡辺) 後ろの敷地は、ここを持っている人はかなり……。

(大野) 後ろの道まで持っておられたり、半分半分で別だったりするお宅もあります。

(渡辺) 後ろの駐車場もお使いですね。

(大野) そこはもともとお菓子の工場でした。

(渡辺) では、もともとは一体で、道を隔ててお持ちだったのですね。

(大野) 要らないというか、売るにも売れない状態ですから、誰か引取先をとという話であまり高くない金額で移っていただいて……。

土地だけは固定資産税で監視されて高くなりますから、すごく難しいなと思います。活用のしようがないのに、売買価格が高くなってしまって売れないという状況です。

(渡辺) それぞれ持っているので、それぞれが売買するわけですね。

(大野) そういうかたちになります。屋上だけでも貸していただいて、ここを活用することで何かできないかなと思っています。ちょうど、ここから地元の花火がきれいに上がるのが見れます。

(渡辺) 絶対にいいですね。

(大野) 夏はビールを飲みながらビアガーデンもできそうです。

(渡辺) 上がる場所はこれしかないのですか。

(大野) そうです。もしやるとすれば、どこからエレベータを横付けするしか方法はないと思います。各家がどうなっているのかも分かりませんから難しいです。

(渡辺) いろいろ夢を描けますが、いろいろなハードルがありそうですね。

(大野) あります。なかなか難しいところです。面白いことをいっぱい考えるので、もし、ご興味がありましたら、ぜひ、絡んでいただければと思います。ゲストハウスもつくりまして、いま 1 軒目と 2 軒目をつくりまし。学生 30 人ぐらい大丈夫です。

(渡辺) 神奈川大の中井先生のところの学生は皆さん新幹線でいらっしゃるのですか。

(大野) いえ、ちょうどインターンシップの事業を使って、それも 40 万ぐらいしかなかったのですが、20 人近く学生が来ましたから、市からお金を出してもらって夜行バスでいらっしゃいました。

(渡辺) 新幹線は高いですから、学生はちょっと無理ですね。

(大野) 高いです。2 万、3 万をポンっと払えません。

夜行バスはもう乗れないです、しんどいです。あまり周りを気にしないタイプですが、人が近くにいと寝づらいです。

(渡辺) 防火建築帯 FES にもまた学生が来るのでしょうか。

(大野) ワークショップから、会議テーブルみたいなもので布を出してお店をされるのですが、その会議テーブルも自分で作ろうという話になりまして、森林組合さんに 1 枚板を用意していただいて、削ったり磨いたり、脚を作ったりというのをワークショップでやって、興味を持っていただいて、当日にという流れを考えております。当日だけですと面白くありませんから。

(渡辺) 準備から絡んで、それも手作りで実感が湧くと思います。

(大野) 本当は藤田君が氷見でやっているように、どういのがいいかなど企画作りの

ところから市を巻き込んでやるといちばん良かったのですが、そこは次回かなという感じ  
です。

(渡辺) 一度、ボンと花火を打ち上げて興味を持てくださる人がいればいいのですが。

(大野) また氷見の状況とは違いますので、まずは1回やってみて、「こんなものがある  
んだ」というところからスタートということだと思います。

(渡辺) 氷見は商店街の会長さんも協力的です。

(大野) 我々は歳もいっているのです若手に何とか頑張ってもらいたいと思いますし、後  
押しは何でもするからということなんです。

もともと藤田君のお母さんの……。

(渡辺) とし子さんですね。私はとし子さんから紹介されまして、次男が氷見にいるか  
らということで、そういうつながりです。

(大野) とし子先生が私の原点です。9年ぐらい前になりますが、柏のやつがちょうど  
形になったぐらいで、ちょっと講演に呼ばれ始めた時期で、そこで富山に来られて、私は  
京都にいたのですが、こちらに戻ってきたばかりで、商店街に若いやつが帰ってきたとい  
われて、商工会議所の人と一緒にいこうと言われて行ったのが藤田先生の講演会でした。

「めっちゃ面白い」と思いました。そして懇親会でたくさんしゃべって、「一度、魚津に  
来ていただけませんか」と言いまして、次の日に予定があったのかどうかは分かりません  
が、魚津に来ていただきました。それがご縁で、たまに電話でやり取りしたり、東京にい  
るから会えないかと電話をしていろいろ話を聞いていただいたりしています。

最近、魚津で藤田君と飲んで、藤田君と2人で自撮りをしてお母さんに送りました。

視察で近畿デスクの紫波町とか、オガールとかも岡崎さんに去年講演に来ていただいた  
りしました。ブルーススタジオの大島さんも来週いらっしゃいます。リノベーションとか少  
し防火建築帯を認識してもらったということもあって、上のおじさんたちが気付いて……。

(渡辺) 価値に気付いてくれるといいのですが。壊すと再生できませんから。

(大野) そうなんです。みんなが壊そうと言っていて、イオンみたいなのところがい  
いと言っているのですが、そんなことをやっても意味がないんです。イオンに勝てるわけ  
がないです。そこが強みじゃないわけですから。

でも、研究していただいて、先ほど皆さんに読んでいただいた冊子を学生に発表してい  
ただきましたら、経済界の人たちも防火建築帯は残さなくてはいけないと言っていて、少  
しいい方向には向いてきたなという意見があります。

(渡辺) すごいタイミングですね。

【了】